

令和7年度

第2回千厩小中学校運営支援協議会

R7.12.10 14時～

千厩中学校 多目的ホール

次第

- (1) 授業参観
- (2) 会長あいさつ
- (3) 議事
 - ・ 学校経営の経過報告 (千厩小・千厩中各校長)
 - ・ 学校評価・諸調査結果 (千厩小・千厩中副校長)
- (4) その他
 - ・ クマの対応について

令和7年度第2回千厩小中学校運営支援協議会名簿

No.	所 属	役 職	氏 名	備 考
1	一関市立千厩小学校	千厩小学校 校長	伊東 洋司	
2	一関市立千厩小学校	千厩小学校 PTA会長	小野寺 貴幸	
3	一関市立千厩中学校	千厩中学校 校長	坂本 真	
4	一関市立千厩中学校	千厩中学校 PTA会長	佐藤 ひかる	
5	一関市立千厩小学校	元学校評議員	千田 恭平	
6	一関市立千厩小学校	元学校評議員	千葉 秀一	
7	一関市立千厩小学校	元学校評議員	菅原 教子	
8	一関市立千厩中学校	元学校評議員	菅野 博	
9	登下校見守り隊	千厩地区隊長	千葉 哲夫	
10	千厩地区まちづくり協議会	副会長	小山 妙子	副会長
11	小梨自治振興協議会々長	会長	三浦 俊雄	副会長
12	奥玉振興協議会	会長	菅野 政彦	会長
13	磐清水自治協議会	会長	小野寺 敏男	副会長
14	一関市立千厩小学校	副校長	小島 睦	
15	一関市立千厩中学校	副校長	高橋 走	

令和7年度
千厩小中学校運営支援協議会
第2回学校運営支援協議会

令和7年12月10日(水)

《 千厩小学校資料 》

- 1 学校経営の経過報告
- 2 諸調査結果(学力調査・運動能力調査)
- 3 1学期の振り返りアンケート
 - ① 児童用
 - ② 保護者用



1 令和7年度これまでの学校経営について

(1) 令和7年度の経営の具体的重点

① 主体的に学ぼうとする児童を育成すること

◇分かる喜びや共に学ぶ楽しさが実感できる指導の工夫。

◇授業改善を通して、自ら学ぼうとする手立て、対話の充実を図るための手立ての構築。

◇校内研究・研修による指導力の向上。



11月18日に、「自ら学ぼうとする子どもの育成～「対話」の充実に向けた授業改善～」を研究主題に学校公開研究会を開催。

【成果】

- ・自分の考えを表現したり、他者とまなび合ったりする中で、学習を深められるようになってきた。
- ・対話することのよさに気づき、学習を協働しながらよりよいものにしようとする意欲につながってきている。
- ・教師が、対話のある授業を構想し、伴走者としての役割を体現している。

【課題】

- ・対話において子どもの活発な思考を促す発問の類型化。
- ・更に子どもが安心して参加できる授業にするための安心感のある学級経営。

② 家庭・地域と連携協働した教育活動の推進

◇まなびフェストをもとに、児童・保護者・教職員の三者が目標を共有・評価・改善。

◇学校運営支援協議会や地域の方々と連携協働した教育活動と家庭・地域への発信。

【成果】

- ・まなびフェストの意識化を図ることで、1学期末の時点で児童は全ての項目で目標値を上回った。
- ・今年度も、校外学習やゲストティーチャーの招聘などにより、充実した地域学習が行われ、学習発表会で地域の方や保護者に学習の成果を披露した。

(1年：ひまわりプロジェクト 2年：まちたんけん 3年：農業施設見学・食育(郷土食)

4年：環境学習 5年：防災・復興 6年：地域の宝 等)

- ・学習ボランティアを活用した教育活動。(ミシン指導、合唱指導、校外学習の見守り 等)
- ・環境・図書ボランティアによる環境整備。(校庭の草取り、図書室・理科準備室の整頓 等)
- ・交通安全広報大使による地域巡回訪問。

【課題】

- ・まなびフェストの達成目標の中には、保護者と児童の達成度の意識格差が大きいものがある。
→全校朝会での校長講話、児童会活動による意識化。
- ・地域への発信。
→魅力的なHPの作成と定期的な更新。

(2) 学校経営上の課題

① 特別支援対応

- ・通常学級の個別指導が必要な児童への対応。

空き時間のある職員（通級担当等）、担任外（校長・副校長・教務主任）による個別指導、学級支援。

・特別支援学級適、通級指導適と思われる児童の増加。

市の学校サポーター（3名）による支援。

② 児童減 ※4月時点の人数

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	知的	情緒	病弱	計
R5 学級(児童数)	2 (44)	2 (53)	2 (60)	2 (54)	2 (55)	3 (74)	2 (15)	1 (2)	1 (1)	17 (358)
R6	2 (53)	2 (43)	2 (53)	2 (58)	2 (53)	2 (55)	3 (19)	1 (2)	1 (1)	17 (337)
R7	2 (46)	2 (50)	2 (44)	2 (53)	2 (58)	2 (52)	3 (19)	1 (1)	1 (1)	17 (324)
R8 ※予定数	2 (45)	2 (45)	2 (50)	2 (44)	2 (53)	2 (58)	2 (16)	1 (2)	1 (1)	16 (314)

【参考】児童数の見込み(R9～)

R9:290 R10:273 R11:262 (1学年1学級) R12:238(1・2学年1学級) R13:218(1～3学年1学級)

③ 生徒指導対応

・不登校

不登校児童6名（1・3・4・6年）

フリースクール通学2名、教育支援センター（たんぽぽ広場）通所3名。

・いじめ認知13件（ケース別では4件）

命令に従わせる。（加害：6年男→被害：6年男複数）

誤ってボールを当てた児童を押さえボールを当て返す。（4年男複数→4年男）

唾を吐きかける。（2年男→2年男）

※以上3件については、現時点でいじめの継続は見られない。

（3カ月を経過し、被害者、保護者に確認したら解消と判断。）

被害児童が気に障る行為をした際に仲間にサイン（動作）を送る。（5年女複数→5年女）

④ 危機管理

・熊対応～家庭への情報提供、保護者の送迎依頼、職員の巡視、児童への指導、忌避剤 等。

・不害者対応～警察への連絡、家庭への情報提供、児童への指導 等。

2 諸調査の結果について ※後頁資料参照

(1) 全国・岩手県学習状況調査（6年・5年）

(2) 岩手県体力運動能力調査（全学年）

(3) 1学期「学校・家庭生活アンケート」（児童・保護者）

3 今後の主な行事予定

12/19（金）2学期終業式

1/15（木）3学期始業式

2/6（金）授業参観

2/19（木）6年生を送る会

3/17（火）修了式

3/18（水）卒業式

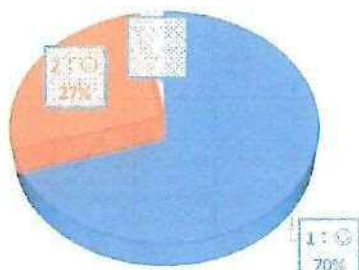
3/24（火）離任式

令和7年度 1学期振り返り 児童集計(7月)

集計結果から見えてくること

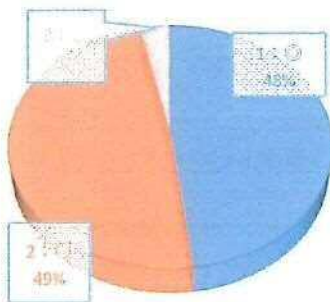
学年	(1)学校は楽しい。				(2)あいさつ・言葉遣い				(3)当番の仕事・縦割り班掃除				(4)授業が分かる・集中して学習				(5)よく聞き、考えを話す				(6)読書・家庭学習			
	1:○	2:○	3:△	4:△	1:○	2:○	3:△	4:△	1:○	2:○	3:△	4:△	1:○	2:○	3:△	4:△	1:○	2:○	3:△	4:△	1:○	2:○	3:△	4:△
全校児童 合計	208	79	9	142	144	10	233	56	6	174	106	18	148	128	19	168	100	28						
第1学年 合計	44	1	0	42	2	1	42	1	1	39	3	2	38	3	3	38	5	1						
第2学年 合計	42	8	3	33	19	0	41	10	1	36	12	5	34	14	4	36	13	4						
第3学年 合計	31	9	3	25	15	3	34	7	2	26	14	3	25	14	4	29	11	3						
第4学年 合計	39	15	1	22	32	1	48	6	1	31	23	1	18	36	1	30	22	3						
第5学年 合計	30	23	1	11	41	2	37	16	1	23	28	3	19	29	6	22	22	10						
第6学年 合計	22	23	1	9	35	3	31	16	0	19	26	2	14	32	1	13	27	7						

(1)学校は楽しい



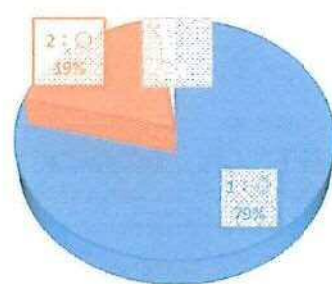
○児童のほとんどが学校が楽しいと考えてい

(2)あいさつ・言葉遣い



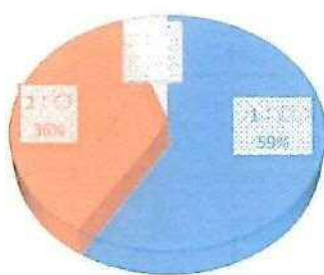
○児童の自己評価は、地域の人にあいさつを

(3)当番の仕事・縦割り班掃除

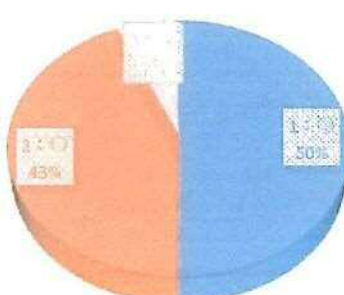


○全質問の中で積極的肯定回答が最上値
○全質問の中で積極的否定回答が最下値

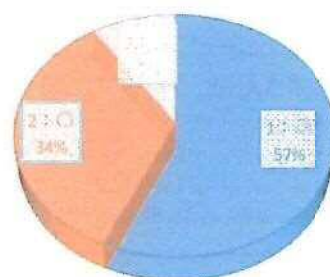
(4)授業が分かる・集中して学習



(5)よく聞き、考えを話す



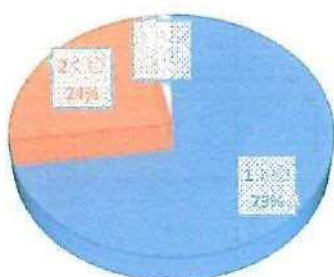
(6)読書・家庭学習



○学習に関する(4)～(6)の3項目は、似たような円グラフを示した。
○肯定回答から積極的肯定回答に少しずつ移行できるような工夫が必要である。

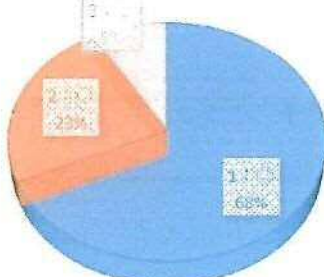
学年	(7)きまり・安全				(8)体力づくり				(9)早寝早起き朝ごはん			
	1:○	2:○	3:△	4:△	1:○	2:○	3:△	4:△	1:○	2:○	3:△	4:△
全校児童 合計	215	70	10	201	69	25	163	107	26			
第1学年 合計	39	5	0	39	1	4	34	6	4			
第2学年 合計	42	9	2	36	13	4	33	14	6			
第3学年 合計	31	9	2	29	12	2	20	20	3			
第4学年 合計	36	14	5	44	9	1	33	20	2			
第5学年 合計	42	11	1	30	13	11	22	28	4			
第6学年 合計	25	22	0	23	21	3	21	19	7			

(7)きまり・安全



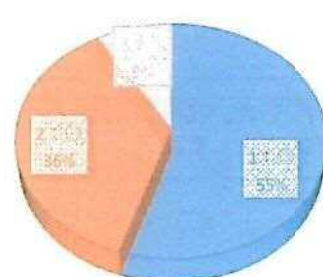
○ほとんどの児童はきまりを守って安全な生活意識している。

(8)体力づくり



○ほとんどの児童は、体力づくりを意識し行っている。

(9)早寝早起き朝ごはん



○早寝早起き朝ごはんを意識している傾向はみられるが、△にも注目し指導が必要である

令和7年度 教育活動保護者アンケートⅠ(7月)

単位: %

No.	項 目	している	どちらかといえば している	どちらかといえば していない	していない	(わからない)学 校関係質問	肯定回答
1	お子さんは、その場に応じた言葉遣いやあいさつができています。	28	60	10	2		88
2	家庭では、お子さんに仕事や手伝いをさせている。	22	49	21	8		71
3	家庭で学習するときに、テレビを消して取り組んでいる。	51	28	16	5		79
4	お子さんは、家庭学習(学年×10分+10分以上)に取り組んでいる。	29	43	24	5		72
5	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムができています。	45	39	11	5		84
6	お子さんとテレビやゲーム、パソコン(タブレット)・携帯電話の利用時間や約束事を話し合っている。	29	44	17	9		73
7	お子さんは、学習内容を理解している。	35	50	13	2		85
8	お子さんは、自分の考えを分かりやすく話すことができる。	21	56	20	3		77
9	お子さんは、読書の習慣が身についている。	24	28	31	18		52
10	お子さんは、きまりを守り安全を意識して生活している。	47	48	4	1		95
11	学校は、目標をもたせながら進んで運動する取り組みをしている。	34	43	4	0	19	77
12	学校は、教育方針や考え方、学校の様子などをよく家庭や地域に伝えている。	28	54	4	1	13	82
13	学校は、子どものことについての相談に適切に応じている。	37	43	2	1	17	80

令和7年度
第2回千厩小中学校運営支援協議会
～中学校資料～

R7.12.10



【社会体験学習】



【復興教育講演会】



【一関地方中学校総合文化祭 3年生・みなトモ学級】

一関市立千厩中学校

1 学校経営の重点と具体的な取組について

(1) 確かな学力の定着

ア 学習評価を生かした授業改善

→生徒に力がつく授業をつくるため、年2回の校内研究会、年5回の学習専門員訪問、授業づくり相談会で外部講師を招き、研究協議、互見授業による意見交換を行い、授業改善に取り組むことができた。

イ 基礎的・基本的な知識・技能の習得並びに思考力・判断力・表現力の育成

全体的に知識・技能については、県と同等の学力は身に付いているが、思考、判断、表現については課題がある。生徒が授業の中で思考する場面、判断する場面、表現する場面を意識した授業改善に取り組んでいきたい。

ウ 授業と連動した家庭学習を意識した切れ目のない継続的な学びの実現

→家庭学習の提出率は上がっており、平日の家庭学習の習慣は身に付いてきているが、学習内容の充実と授業と連動した家庭学習が課題である。

エ 一人1台パソコンを活用した個別最適な学習と協働的な学習の推進

→県の指定を受けて数学科の教員3名、市の指定を受けて家庭科の教員1名が、ICTの効果的な活用について研修を深めることができた。学んだことを教職員に伝講し、実践につなげる。

(2) 豊かな人間性の育成

ア 命の大切さを理解し、自分の大切さとともに相手の大切さを認める生徒の育成

→思春期講演会、薬物乱用防止教室を実施し、生命尊重や相手を思いやる気持ちについて学ぶことができた。

イ 節度と規律ある行動を心掛ける生徒の育成

→全校・生徒集会の集合・整列に意識して取り組み、儀式や集会の際には整然と整列することができる。避難訓練での避難の仕方につながっている。

ウ 困難や課題を乗り越え、目標に向かい最後まで全力を尽くす生徒の育成

→体育祭、紅輝祭などの行事を通して、集団で1つの目標に向かって取り組む中で、意見が合わずに対立したり、リーダー任せになってしまったりする場面もあった。そこを乗り越え、団結する経験を通して集団としての成長をすることができた。

エ 特別な支援を要する生徒、学校不適応生徒に寄り添う支援体制の構築

→不登校生徒や別室登校の生徒に、寄り添い根気強く支援したり指導したりしていく中で、教室復帰を果たすことができた生徒もいる。進展がなくてもあせらず、生徒、保護者とのつながりをもちながら継続して支援していきたい。

・不登校生徒数 7名(1学年男子1名、2学年男子2名、女子1名、3学年女子3名)

・別室登校生徒数 2名(2学年女子)

(3) 健やかな心身の育成と危機管理の徹底

ア 生徒に寄り添い、個に応じた支援に努める。

→いじめアンケート、教育相談週間、学校生活アンケートを通して、生徒の悩みや心配事を大小にかかわらず受け止め、組織的に対応することができた。

イ 学校での居場所づくりや絆づくりを進め、学校不適応やいじめの未然防止に努める。

→行事や学級活動において、ひとり一人に役割を持たせ、活躍する場面とみんなから認められる場面をつくることができた。

ウ 新体力テストの結果を生かし、計画的・継続的に体力・運動能力の向上に努める。

→中総体、新人大会、盛岡市内一周継走、駅伝、通信陸上、徒歩通学奨励を通して、生徒の運動習慣、体力向上に努めた。

エ 「自分の命は自分で守る」という意識を高める。

→避難訓練、小中合同引き渡し訓練、クマ対策講話を通して、自分事として命を守る行動ができる生徒の育成に努めた。また、保健だよりを通して、自分の健康を守るために必要なことを情報提供した。

(4) 保護者・地域との連携及び協働の推進

ア 学校評価やいじめ防止基本方針など情報発信を行い開かれた学校づくりに努める。

→学校通信、学年通信、学校のホームページを通して、生徒の様子を情報発信することができた。また、学校教育活動アンケートの結果を教職員で共有し、指導に当たることができた。(別紙1)



イ 保護者、地域住民との連携強化を意識し、学校教育の共創を目指す。

→学校運営支援協議会を通して、学校運営計画を提案し、地域の方からもご意見をいただくことができた。また、地区の行事にボランティアとして、中学生の役割をつくっていただき、地域の一員として活躍することができた。地域の人からほめられる経験は、生徒の貴重な財産、自信につながっている。PTAの早朝草刈りを年に2回実施し、たくさんの保護者からご協力いただき、環境整備を行うことができた。体育祭に前には、地域の方から駒場グラウンドの草刈りを行っていただき、良いグラウンドコンディションで体育祭を実施することができた。

(5) 特色ある教育の推進

ア カリキュラムマネジメントを生かした復興教育の推進

→復興教育講演会では、自転車で世界1周の旅をした経験のあるミキハウス 坂本達 氏を招いて「夢の力」と題して講演を行い、本校生徒の課題に迫ることができた。

イ 総合生活力・人生設計力を育てるキャリア教育の推進

→2年生の社会体験学習では、千厩町内31事業所、1年生の職場訪問学習では東磐井の2事業所にそれぞれ受け入れを行っていただいた。働くことの意義ややりがいを経験することができた。

ウ 清明支援学校分教室との連携を図り、インクルーシブの視点に立ち、障がい者を正しく理解し、相手の立場を認め接することのできる心の育成に努める。→本校の強みである。(別紙2)

令和7年度第1回学校教育活動アンケート
(生徒) 集計結果

回答率 95% (未回答10名)

1～11【確かな学力の定着】
12～20【豊かな人間性の育成】
21～24【健やかな心身の育成】
25【地域に開かれた学校】あてはまる
ややあてはまる
あてはまらない
あてはまらない

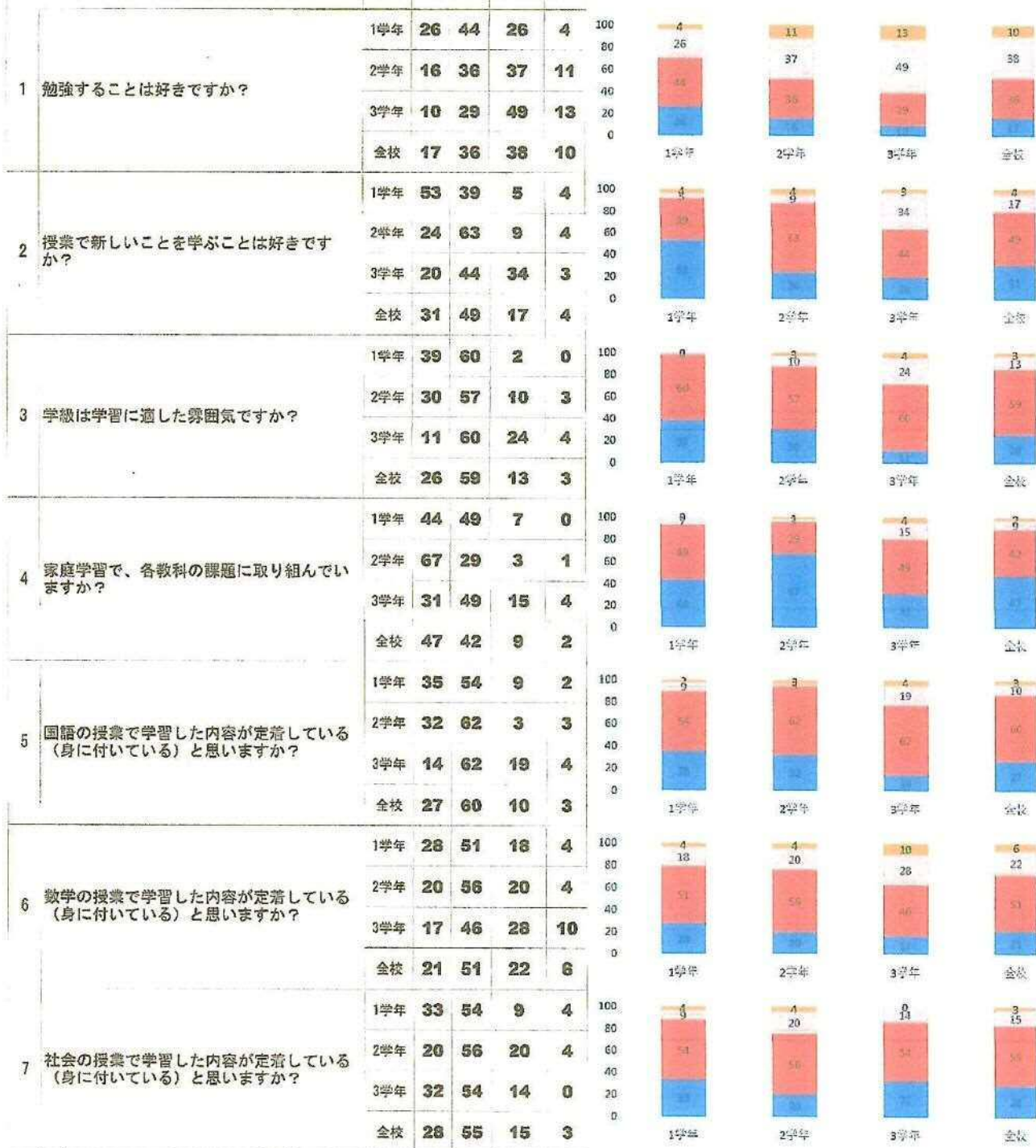
あてはまらない

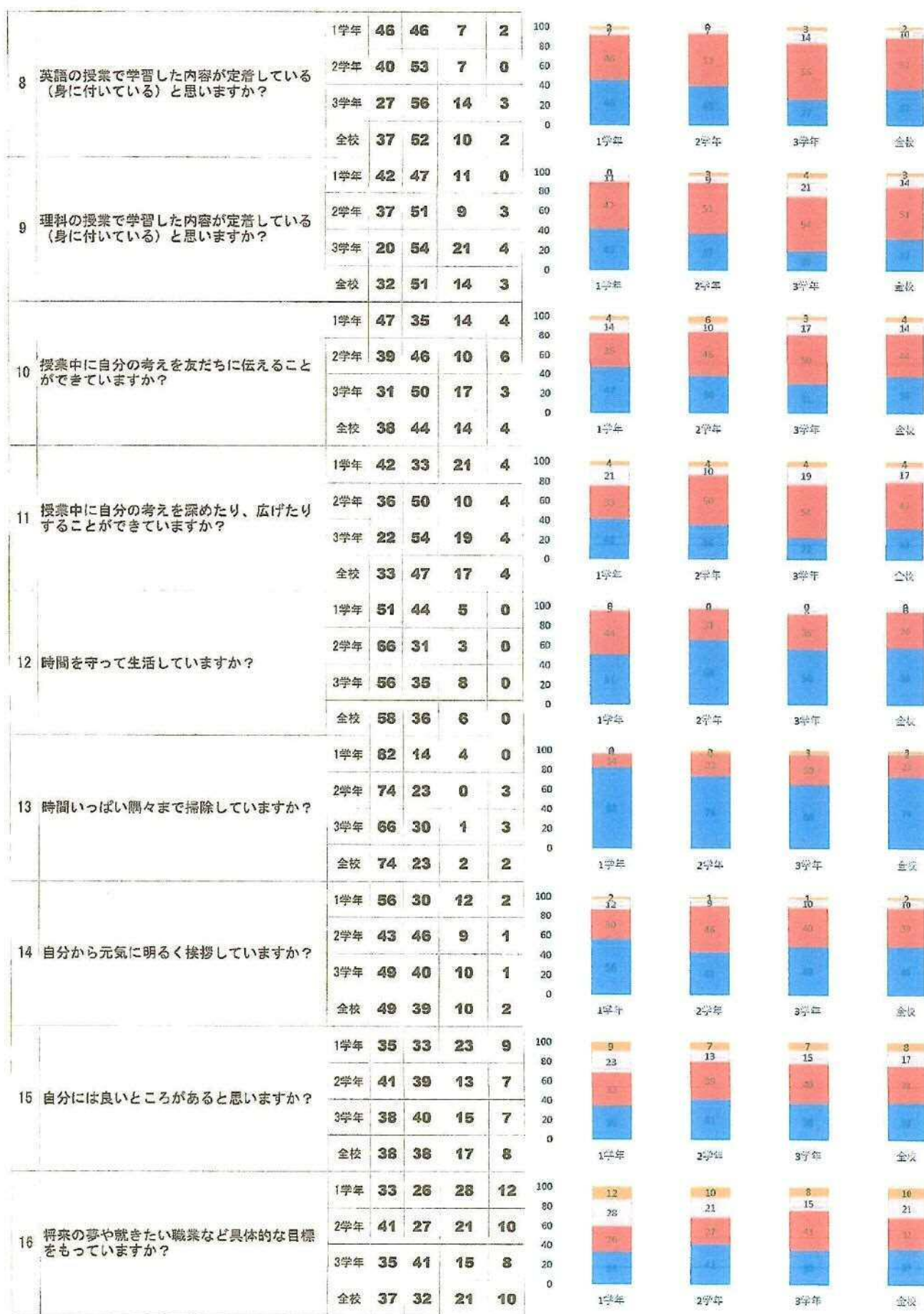
あてはまらない

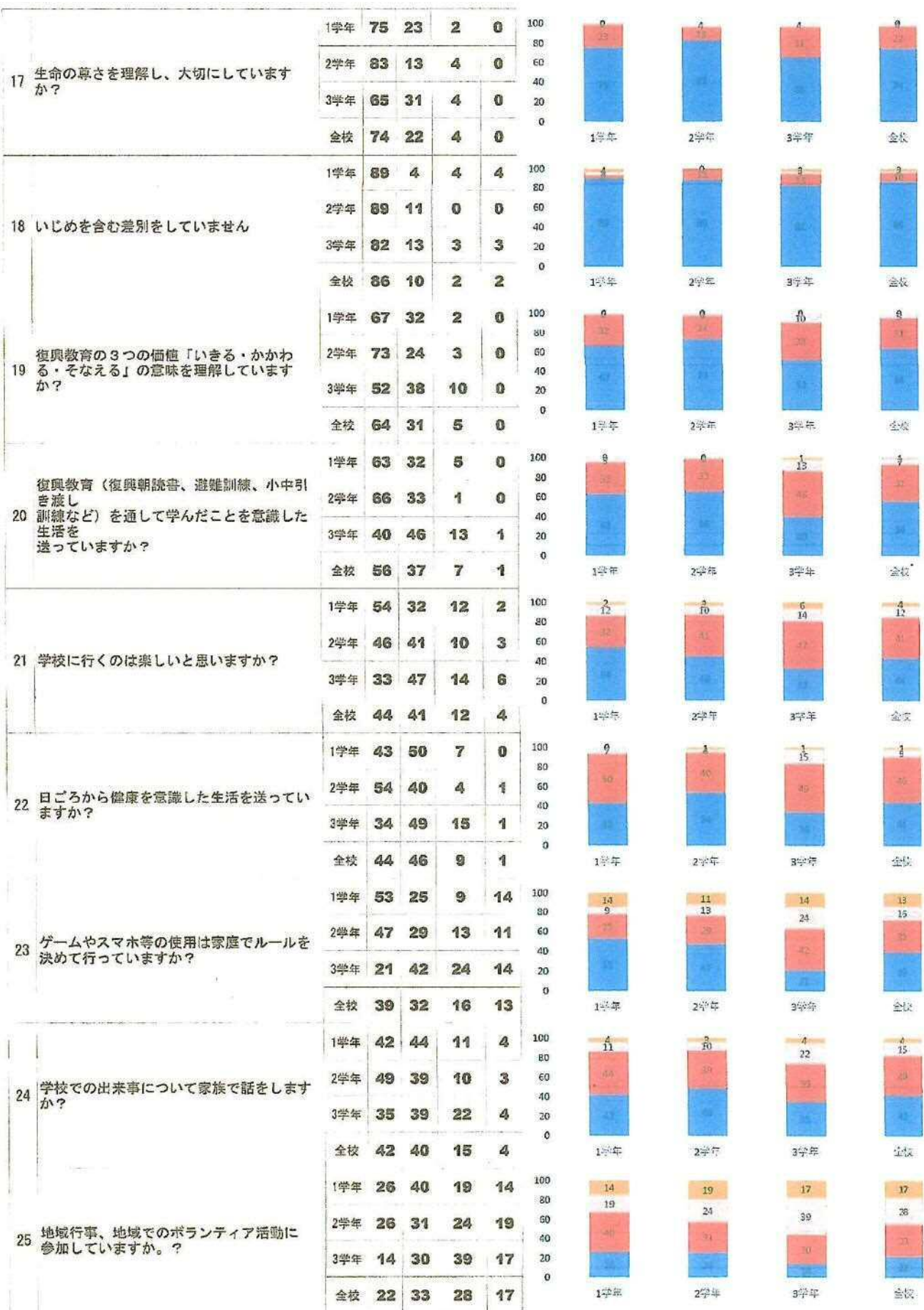
あてはまらない

あてはまらない

あてはまらない







千厩中学校まなびフェスト達成状況（1学期）

【確かな学力の定着】

- 1 「学習した内容や技能が身に付いている」と思う生徒の割合を75%以上にします。
5教科の結果（5～9）を合わせて集計すると、肯定回答が83%となり、目標値を達成することができた。教科ごとを見ると達成できていない状況があるので、教科担任を中心に改善に努めたい。
- 2 「授業で、自分の考えを深めたり広げたり、伝えたりすること」ができている生徒の割合を75%以上にします。
肯定回答が80%となり、目標値を達成することができた。
- 3 家庭学習で、各教科の課題にしっかり取り組んでいる生徒の割合を75%以上にします。
肯定回答が89%となり、目標値を達成することができた。

【豊かな人間性の育成】

- 1 復興教育の「いきる・かかわる・そなえる」の3つの意味を理解している生徒の割合を70%以上にします。
肯定回答が75%となり、目標値を達成することができた。毎月の復興朝読書の時間の前後に価値について意識させたい。
- 2 「時を守り 場を清め 礼を正す」ができている生徒の割合を90%以上にします。
関連する質問の結果（12～14）を合わせて集計すると、肯定回答が93%となり、目標値を達成することができた。礼（14あいさつ）については、積極肯定回答を伸ばしたい。
- 3 自分にはよいところがあると思う生徒の割合を80%以上にします。
肯定回答が76%となり、目標値を達成することができなかった。
学校生活のあらゆる場面で、「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、児童生徒が実感することを大切にしたい。また、ありのままの自分を肯定的に捉える自己肯定感や、他者のために役立った、認められたという自己有用感を育むことを学級・学年・全校（生徒会活動・委員会活動・部活動等）での活動で意識して指導・支援にあたりたい。
- 4 将来の夢やつきたい仕事など具体的な目標をもつ生徒の割合を75%以上にします。
肯定回答が69%となり、目標値を達成することができなかった。2学期の「礎」の時間や特別活動を通して、将来への目標を持たせたい。

【健やかな心身の育成】

- 1 学校に行くのが楽しいと思う生徒の割合を90%以上にします。
肯定回答が85%となり、目標値を達成することができなかった。自己決定する（自ら考え、選択し、決定する）機会を増やしたり、間違いや失敗を笑わないなど相手の立場に立って考え、行動できる共感的な人間関係をつくらせたい。
- 2 健康を意識した生活（三食を摂る、適度な睡眠、歯磨き習慣、適度な運動等）を送る生徒の割合を80%以上にします。
肯定回答が90%となり、目標値を達成することができた。

【家庭や地域から信頼される学校】

- 2 地域行事への参加、地域でのボランティア活動に参加する生徒の割合を70%以上にします。
肯定回答が55%となり、目標値を達成することができなかった。校報を通じてボランティア募集の依頼を受けて生徒に促したい。（11月1・2日の千厩産業文化祭のボランティア募集の依頼有）。